

第2学年2組 社会科学学習指導案

指導者 梅村 大輔

1 単元名 幕末の人々の思いに迫ろう ～地域の偉人松本奎堂を通じて～

2 単元目標

- ・新しい時代を作ろうとした人物に関心をもち、意欲的に調べようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・新しい時代を作ろうとした人物の思いや考えを、相関図や資料で考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・人物の果たした役割を写真、資料、文献から適切に選び、時代の様子を読み取ることができる。(資料活用の技能)
- ・新しい時代を作ろうとした人物の役割や生き方を理解することができる。(知識・理解)

3 単元計画 (7時間完了)

入り口の姿 それぞれの人物がどんな思いで生きていたかを知らないな。幕府の動きや薩摩藩や長州藩の動きや思いはどんな感じだったんだろう。			
時	学習内容	学ぶ楽しさを実感するための手立て	段階
1	○ペリーが来たときの人々の思いに迫ろう ・江戸幕府の対応をまとめる。 ・この時代の人々の気持ちを表にまとめる。 ・井伊直弼の考えをまとめる。	・ペリーの要求について江戸の人たちの思いに迫れるよう、資料の読み取りを行う。 ・開国に踏み切った井伊直弼の考えを相関図に表し、読み取るようにする。	C
2	○尊皇攘夷の高まりを相関図にまとめよう ・井伊直弼・西郷隆盛・木戸孝允が倒幕佐幕、開国攘夷のいずれであったか、相関図(それぞれの考えを座標軸上に表したものにまとめる。 ・人物の考えを相関図と文章にまとめる。	・幕府と薩摩藩・長州藩の代表人物を相関図にまとめることで、人々の考えに迫ることができるようにする。 ・相関図の位置に示した根拠をまとめることで、その人の考えに迫ることができるようにする。	D
3	○幕末の人々の思いを相関図にまとめよう ・西郷隆盛や木戸孝允がどのように考えが変化したか相関図を利用して読み取る。 ・変化した原因を考える。	・薩摩藩と長州藩の考えの変化を相関図を作ることで考えさせる。 ・15年の中で考えが大きく変わったことに気がつくようにする。	D
4	○15年の変化を年表でまとめよう ・3時間で学んできた人物の考えの相関図を一つにまとめる ・当時の人々の考えの変化を読み取る。	・15年の相関図を3つの時期についてまとめることで、考えが変化していることを読み取り、人々の思いの変化に迫る。	D
5	○当時の刈谷藩の人々はどう思っていたのか調べよう ・インターネットや教師の与えた資料より、松本奎堂たちが尊皇で活動したことを知る。	・刈谷藩でも、日本のために尊皇を実現するために行動した人がいたことに気づかせる。	U (C)
6	○刈谷藩の偉人を知り思いに迫ろう ・奎堂のDVD(刈谷市編集)をみて、松本奎堂の行動をまとめる。 ・松本奎堂の行動から思いをまとめる。	・DVDから行動をまとめることで、松本奎堂の思いに迫ることができるようにする。 ・相関図にまとめた根拠を考える。	U (D)
7 本 時	○松本奎堂の考え方や生き方を通して、この時期の世の中の動きを考えてみよう ・松本奎堂の思いを話し合い、理解し合う。 ・松本奎堂の思いを一文にまとめる。	・個人の考えをもとに、グループの話し合いを通して、松本奎堂の相関図を作る。松本奎堂の行動を一文にまとめ、思いに迫るようにする。	U (U)
出口の姿 この15年間は、大きく時代が動いたんだな。そんな中で、刈谷出身の松本奎堂は、世の中を変えたいと立ち上がった人だったんだ。この人から熱い思いが伝わってきた。新しい事実が学べてよかったな。			

4 本時の指導

(1) 目標

- ・ 尊皇を貫き日本のために行動した松本奎堂の考え方や生き方を知ることができる。
- ・ 松本奎堂の行動を、当時の状況（通史）の流れや木戸孝允・西郷隆盛などと比較し、この時期の様子をさらに深めることができる。

(2) 授業構想

ペリー来航から戊辰戦争までの15年を3つに分けた。第1期はペリー来航から日米修好通商条約まで、第2期は生麦事件から四国艦隊下関砲撃まで、第3期は薩長同盟から戊辰戦争までの期間である。そして、その時期の大きな転換になる出来事を通して、活躍した人物の考え方を相関図（佐幕派 OR 倒幕派、攘夷派 OR 開国派）に表し、時代の流れを学んでいる。その後、第2期の時に、天誅組を組織した刈谷藩出身の松本奎堂を取り上げる。この人物の経歴をDVDと資料で読み取らせ、奎堂の行動や考えを個人でまとめておく。

本時では、前時の考えをもとに、グループでまとめ、松本奎堂がどのような考えをもっていたのか、さらに深くまとめる。松本奎堂らが起こした天誅組の動きや、松本奎堂と木戸孝允・西郷隆盛らの考えを比較する。この激動の中、幕末に命をかけて行動した刈谷出身の松本奎堂の生きざまを考えさせ、この時期の様子をさらに深めさせたい。

(3) 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点	段階
	○本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">松本奎堂の考え方や生き方を通して、この時期の世の中の動きを考えてみよう。</div>		C
3	○DVDでみた松本奎堂の行動や考え方がわかるころ発表する。 ・昌平坂学問所で学び、日本のために役に立ちたかった。 ・天誅組の指導者だった。 ・天皇中心の国にしたかった。	・前時にみたDVDをもとに松本奎堂の考えがわかる部分を発表し、様々な思いに迫るようにする。 ・松本奎堂が大きな転換点に行動していたことを年表を使って確かめる。	D
13	○DVDや資料をもとに松本奎堂の考え方をグループでまとめ相関図に表す。 ・攘夷にすごくよっているんじゃないか。 ・間違いなく倒幕だよね尊皇だもん。	・グループで話し合い、松本奎堂の考え方を相関図上に表すことで、世の中の動きを知る。	D
30	○松本奎堂と長州藩や薩摩藩の考え方を比較する。 ・薩摩、長州が開国に変わってきているのに奎堂はあくまで攘夷だな。 ・だから、うまくいかなかったのかもしれない。 ・でも、奎堂が動いたことで、影響があったかも。	・松本奎堂の考え方と、薩摩藩、長州藩との違いをはっきりさせるために、それぞれの相関図を比べる。攘夷では同じだが、倒幕では違っていたことに気づかせる。	D
40	○奎堂の思いや行動を一文にまとめる。 ・日本のために命をかけ、尊皇攘夷を貫き通した。	・辞世の句を提示することで、松本奎堂の思いに迫る。	U
47	○本時の感想を書く。	・松本奎堂の行動や思いを短い言葉でまとめることによって、人物像をつかむ。	

(4) 評価

- ・ 松本奎堂の生き方・考え方を知ることができたか、発言、ノートの記事から判断する。
- ・ 松本奎堂の行動を、当時の状況（通史）の流れと比較することを通して、この時期の様子をさらに深めることができたか、発言、ノートの記事、相関図から判断する。